

生活基盤施設耐震化等事業計画

令和2年10月14日

計画の名称	神奈川県における水道施設強靱化促進事業						
計画の期間	平成27年度～平成31年度		交付対象	神奈川県企業庁、横浜市水道局、川崎市上下水道局、横須賀市上下水道局、小田原市水道局、三浦市上下水道部、秦野市上下水道局、神奈川県内広域水道企業団			
計画の目標	水道施設の耐震化を進め、地震が発生した際に水道が果たすべき機能を継続的に確保し、地震に強いまちづくりを図る。						
計画の成果目標（定量的指標）	①浄水場耐震化率の向上（H26年度末：20%→H31年度末：42%） ②ポンプ所耐震化率の向上（H26年度末：61%→H31年度末：82%） ③配水池耐震化率の向上（H26年度末：48%→H31年度末：71%） ④緊急遮断弁整備済の配水池容量の向上（H26年度末：93%→H31年度末：98%） ⑤横浜市 金沢ずい道管路化工事（H29年度末：0%→H31年度末：100%） ⑥三浦市 老朽管（铸铁管）の耐震化率の向上（H26年度末：94%→H28年度末：100%） ⑦基幹管路幹線管路の耐震化率の向上（H26年度末：61%→H31年度末：63%） ⑧排水処理施設の耐震化率の向上（H26年度末：7%→H31年度末：29%）						
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値			備考
			当初現況値 (H27年度当初)	中間目標値 (H29年度末)	最終目標値 (H31年度末)		
①浄水施設耐震化率（%）：耐震対策の施されている浄水施設能力／全浄水施設能力			20%		42%		
②ポンプ所耐震施設率（%）：耐震対策の施されているポンプ所能力／全ポンプ所能力			61%		82%		
③配水池耐震施設率（%）：耐震対策の施されている配水池容量／全配水池容量			48%		71%		
④緊急遮断弁整備済配水池容量（%）：緊急遮断弁整備済配水池容量／緊急遮断弁設置配水池容量			93%		98%		
⑤金沢ずい道耐震化進捗率（%）：施工完了延長／施工予定延長（横浜市）			0%		100%		
⑥铸铁管耐震化更新率（%）：铸铁管更新延長／铸铁管総延長（三浦市）			94%		100%		
⑦基幹管路の耐震化率（%）：基幹管路のうち耐震管延長／基幹管路総延長			61%		63%		
⑧排水処理施設の耐震化率（%）：耐震対策の施されている排水処理施設のある浄水場／排水処理施設のある浄水場			7%		29%		
全体事業費 (A+B+C)	25,416,212千円	A	25,416,212千円	B	千円	C	千円
全体交付額 (A+B+C)	3,697,723千円	A	3,697,723千円	B	千円	C	千円

生活基盤施設耐震化等事業計画 事後評価

1. 交付対象事業の進捗状況

水道施設等耐震化事業												
番号	事業種別	事業主体	事業名	事業内容	事業実施期間（年度）					全体事業費 （千円）	全体交付額 （千円）	進捗状況
					H27	H28	H29	H30	H31			
1	上水	神奈川県企業庁	寒川浄水場の耐震化事業	寒川浄水場の耐震補強	計画					89,950	18,015	完了
					実績					81,883	15,141	
2	上水	神奈川県企業庁	谷ヶ原浄水場の耐震化事業	谷ヶ原浄水場の耐震補強	計画					95,832	19,266	継続
					実績					93,996	19,266	
3	上水	神奈川県企業庁	配水池耐震化事業	配水池の耐震補強	計画					727,427	174,300	継続
					実績					647,448	174,300	
4	上水	横浜市水道局	配水池（鶴ヶ峰上部・下部配水池）	鶴ヶ峰ブロックの配水池容量増 (12,000m <sup>3</sup> →19,000m <sup>3</sup> )	計画					2,623,077	328,902	完了
					実績					2,633,519	332,531	
5	上水	横浜市水道局	基幹水道構造物の耐震化	基幹水道構造物の耐震補強	計画					5,019,786	871,446	継続
					実績					4,695,885	821,066	
6	上水	川崎市上下水道局	水道施設耐震化事業	浄水施設、配水池、配水塔及び ポンプ所の耐震化等	計画					7,884,080	938,575	完了
					実績					11,826,403	660,386	
7	上水	横浜賀市上下水道局	基幹水道構造物の耐震化	基幹水道構造物の耐震補強	計画					227,357	47,017	継続
					実績					196,098	35,755	
8	上水	小田原市水道局	基幹管路耐震化事業（送・配水本管）	基幹管路の耐震化	計画					736,856	179,600	継続
					実績					694,806	161,394	
9	上水	三浦市上下水道部	老朽管更新事業	市内の老朽管更新	計画					824,792	17,398	完了
					実績					611,030	17,398	
10	上水	秦野市上下水道局	基幹管路耐震化事業（導・送水管） 幹線管路耐震化事業	基幹管路・幹線管路の耐震補強	計画					644,400	26,000	継続
					実績					214,049	26,000	
11	用供	神奈川県内 広域水道企業団	施設耐震化事業	所有施設の耐震化	計画					6,542,655	1,077,204	継続
					実績					6,413,257	1,077,204	
合計									25,416,212	3,697,723		
									28,108,374	3,340,441		

2. 事業効果の発現状況、評価指標の実現状況

I 事業効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化した管路の更新を行うことにより、水道管路の耐震化の向上が図られた。</li> <li>・浄水施設、配水池、配水塔及びポンプ所の耐震化や緊急遮断弁設置により、災害時の水道水供給能力の確保が図られた。</li> </ul>									
II 評価指標の実現状況	指標① 浄水施設耐震化率（%）	目標値	42%	目標値と実績値に差が出た要因							
		実績値	47%								
	指標② ポンプ所耐震施設率（%）	目標値	82%	目標値と実績値に差が出た要因							
		実績値	82%								
	指標③ 配水池耐震施設率（%）	目標値	71%	目標値と実績値に差が出た要因							
		実績値	72%								
	指標④ 緊急遮断弁整備済配水池容量（%）	目標値	98%	目標値と実績値に差が出た要因							
		実績値	98%								
指標⑤ 金沢ずい道耐震化進捗率（%）	目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	工事契約後、立坑築造箇所地質調査を行ったところ、設計時に想定していた近接場所の土質条件と一部異なっており、地盤改良範囲や仮設工、ずい道の取り壊し範囲について再検討が必要となったため、事業の進捗に遅れが生じた。							
	実績値	45%									
指標⑥ 铸铁管耐震化更新率（%）	目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因								
	実績値	100%									
指標⑦ 基幹管路の耐震化率（%）	目標値	63%	目標値と実績値に差が出た要因								
	実績値	69%									
指標⑧ 排水処理施設の耐震化率（%）	目標値	29%	目標値と実績値に差が出た要因								
	実績値	36%									

III 評価指標以外の事業効果の発  
現状況（必要に応じて）

3. 今後の方針等

今後も、水道事業者による計画的な水道施設の更新・耐震化を推進し、水道施設の耐震化率を向上させる等により、県内の水道施設の強靱化及び水道事業の基盤強化推進を図る。